

DRECOM

6th Business Report



2006.4.1～2007.3.31



DRECOM[®]
with entertainment

株式会社ドリコム

<http://www.drecom.co.jp/>

経営理念

ドリコムは高い企画力と技術力をコア・コンピタンスとし、新規事業をインキュベータ的に創出していくことによって、一人でも多くの人々にエンターテインメント性あふれる生活を提供していく企業を目指します。

ミッション

ステートメント

Vision

私達はこの3つのキーワードをビジョンとして企業活動を行っていきます。

with entertainment ————— 「人々を楽しませること」
always creative, all innovative — 「いつも創造的に、すべて革新的に」
challenge to change ————— 「変化への挑戦」

私達はこの3つを満たすサービスを提供してだけでなく、この3つのイメージに見合う企業になることを目指します。



株主の皆さまへ

with entertainment



代表取締役
内藤 裕紀

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととおよこび申しあげます。

当社グループ（当社及び当社連結子会社）における2007年3月期は、日本におけるブログ関連事業のリーディングカンパニーとしてのブランドを確固たるものとするとともに、ブログ事業に続く新たな中核事業としてユーザー向けブログサービスで培ったノウハウを元に「CGM（Consumer Generated Media）」へ、法人向けブログソリューションのノウハウを元に「SaaS（Software as a Service）」への投資を積極的に行ってまいりました。

一方、既存のブログ事業においては、社内ブログ（SNS）構築パッケージ「ドリコムブログオフィス」及び中小規模向けWebサイト構築・更新システム「ドリコムCMS」の売上に関して当初想定を下回ったこと及び主に人件費等固定的な費用の増加により、経常損失を計上するにいたりました。

2008年3月期は、ブログ事業に関しては「ドリコムブログオフィス」の売上高の拡大と営業体制の強化を図り、収益力を高める計画を立てております。SaaS、CGM分野に関しては、グループシナジーを図りブログ事業に続く第二、第三の柱として2008年3月期に事業化を目指します。

また、ドリコムグループにジェイケンが加わり、グループシナジーを図ることで売上高の大きな伸びが見込めること及び収益力強化を図ることで、2008年3月期は売上高の拡大と赤字の解消を目指します。

今後も、「インターネットサービスのものづくり企業」として全社一丸となり既存事業の拡大と新規事業の立ち上げ及び収益化に邁進していきますので、株主の皆さまにおかれましても、何とぞ、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

インターネットにおけるものづくり企業へ

2007年3月期 通期決算ハイライト

1 2007年3月期の連結業績は、売上843百万円。経常損失181百万円。当期純損失は114百万円。

*2007年3月期当初予算 通期 売上1,500百万円 経常利益400百万円。

2 『ドリコムブログシステム』『ドリコムSNS』は計画通り。

*通期売上高487百万円。

3 『ドリコムブログオフィス』はPullからPushへの営業戦略の移行が遅れ計画を大きく下ぶれる。

*通期売上高154百万円。

4 『ドリコムCMS』はレンタルサーバ戦略からPushへの転換が遅れ、計画を大きく下ぶれる。

*通期売上高110百万円。

5 個人向けサービスのメディア開発は順調に推移。

新インターネット広告サービス『スペースハンターTM』リリース。

*「スペースハンター」=無料広告配信+アドマーケットプレース。

6 JV2社（ドリコムジェネレーティッドメディア、ドリコムマーケティング）は順調な立ち上がり。

*ドリコムGMIは2007年10月より両社より専任メンバーを選定し本格稼働。2008年3月期から収益化。

2つの重点投資分野におけるドリコムの基本展開

● **SaaS^(※1)**=ソフトウェア業界におけるデスクトップからインターネットへの移行

- SaaS (≒ASP) である『ドリコムCMS』、『ドリコムブログオフィス』のサービスの拡充及び拡販。
- ドリコムマーケティング×光通信による販売網の確立。
- 法人用携帯電話×SaaSの新アプリケーションの開発。

● **CGM^(※2)**=Social DataBaseという新しいインフラ

- ドリコムGMIによる求人分野のCGM
- ジェイケンによる携帯電話×CGMのユーザー課金
- 『スペースハンター』によるアドマーケットプレース事業

(※1) SaaS=Software as a Service……ユーザーにとって自由度が高い新しいASPの形

(※2) CGM=Consumer Generated Media……ユーザー参加型のメディアで新しいメディアの形

重点投資分野

SaaS

中小企業をターゲットとし、低額商品の拡大戦略を前提。

- 1st 小規模営業代理店経由での代理店販売実施
- 2nd 大手営業代理店経由での試験販売実施
- 3rd ①大手営業代理店の選定と提携スキームの策定
②量販しやすいパッケージの開発と安定供給体制の構築
- 4th 新製品の開発と携帯電話サービスの強化=法人用携帯電話をターゲットに展開準備
- 5th 代理店戦略の展開 利益よりも規模重視=インセンティブとプロモーションの強化
- 6th 追加サービスの提供とインセンティブ、プロモーションの軽減=利益確保

2006年
3Q/4Q

2007年
1Q/2Q

2007年
3Q/4Q

2008年
1Q/2Q

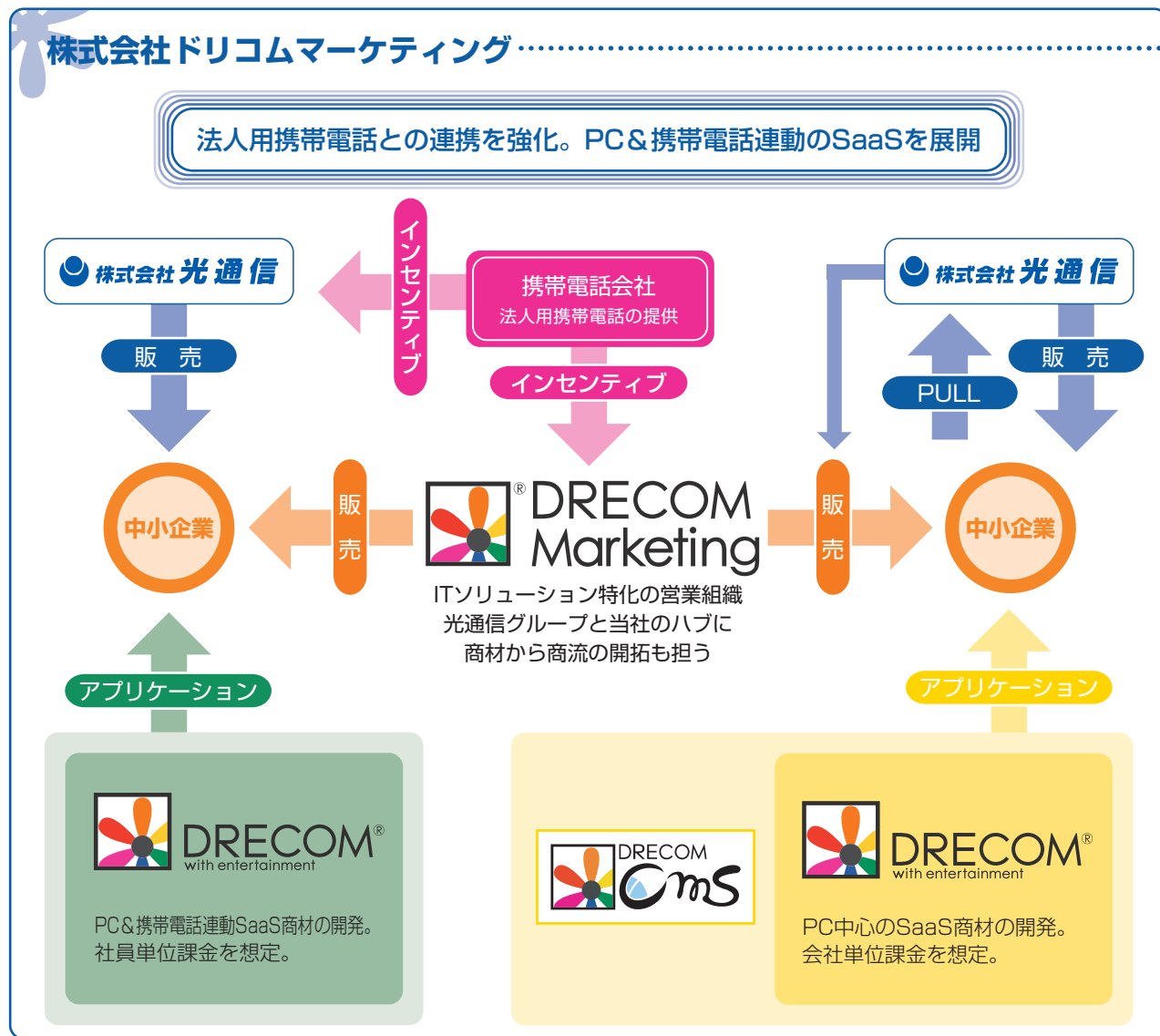
2008年
3Q/4Q

CGM

CGMの開発とCGM向け広告配信サービスの開発に注力



子会社の進捗報告／ドリコムグループ事業構成図



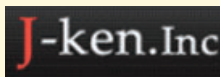
株式会社ドリコムジェネレーティッドメディア



2006年6月1日に、求人、不動産、教育、住宅、旅行、自動車、プライダル、地域などの分野でのCGMの開発を行うために設立いたしました。

同分野に強いリクルートグループとの連携を強化するために、リクルートグループからも資本参加して頂きました。

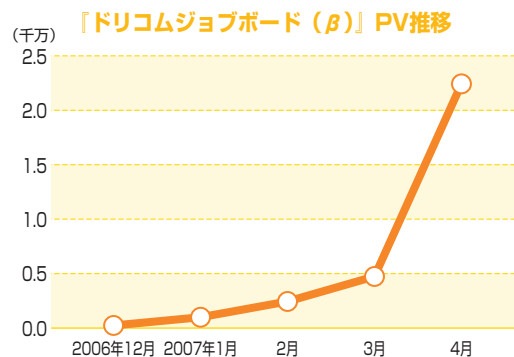
株式会社ジェイケン



2007年4月に、モバイル分野への新規展開及びエンターテインメント領域のCGMに進出するために子会社化いたしました。

株式会社ジェイケンは、投稿者（会員）がアレンジまたは創作した音楽の携帯電話（マルチキャリア対応）でのダウンロード販売を行っており、保有楽曲数は、12万曲（2007年4月末時点）を誇り、業界NO.1の投稿型音楽配信サイトを運営しております。

順調にPVが伸び、2007年4月には月間2,240万PVに

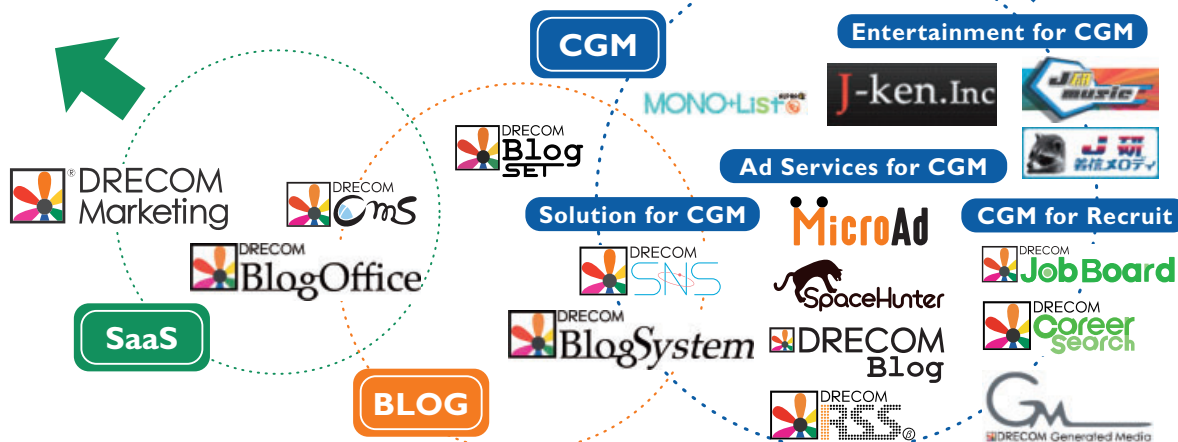


1. 既にPVがあるブログなどが設置することで急速にPVが増加。
2. 2007年4月より広告枠の販売を開始。

※運営会社：株式会社ドリコムジェネレーティッドメディア

ドリコムグループ事業構成図

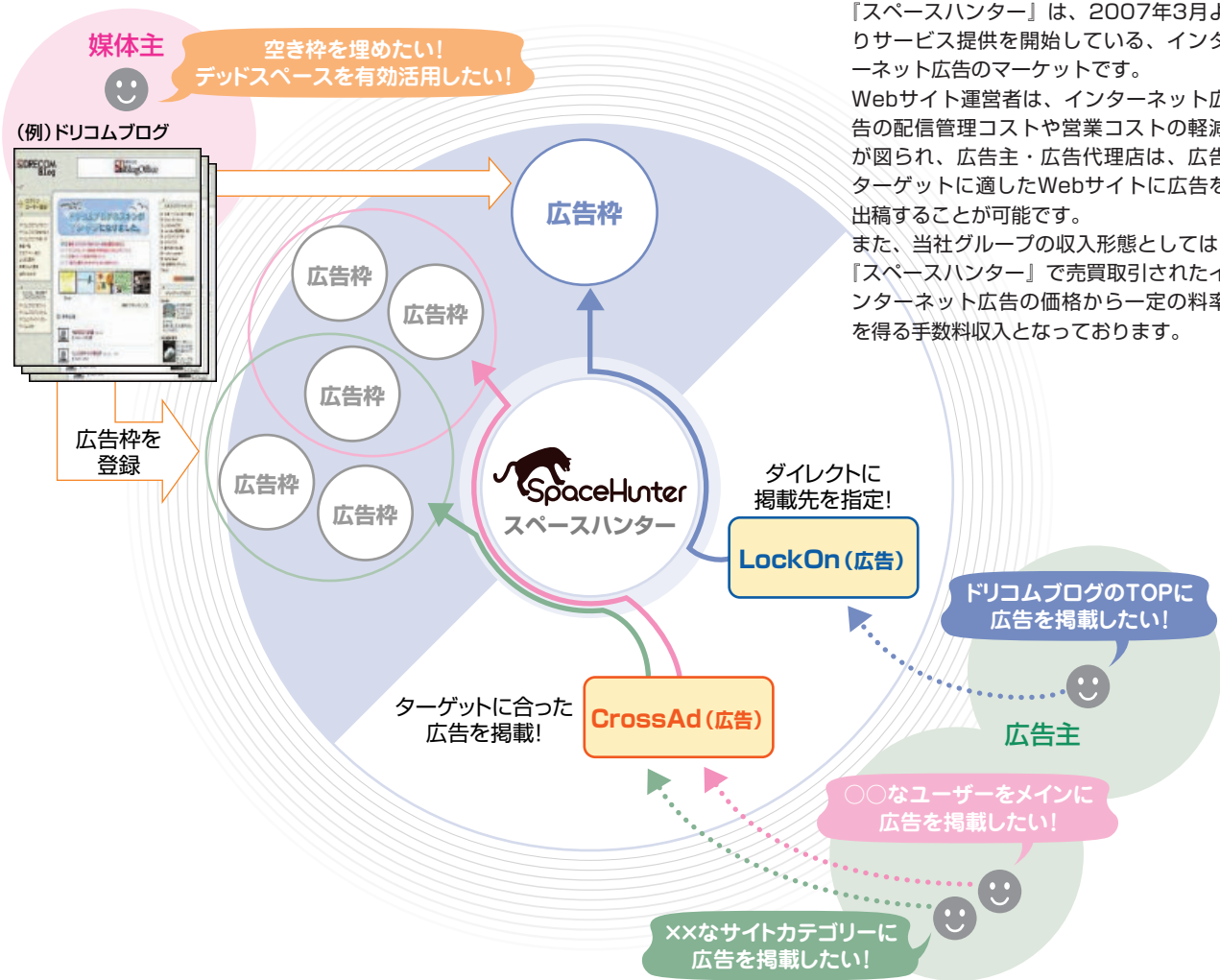
ブログ事業でのノウハウを元にSaaS/CGM分野へ事業拡大



主なサービスの概要

無料で広告配信管理が可能なアドマーケットプレイス

スペースハンター (TM)



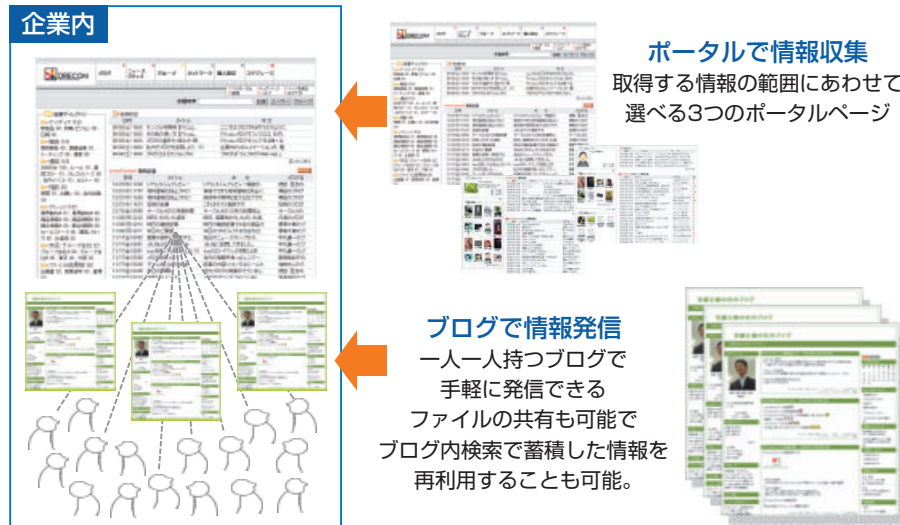
「スペースハンター」は、2007年3月よりサービス提供を開始している、インターネット広告のマーケットです。

Webサイト運営者は、インターネット広告の配信管理コストや営業コストの軽減が図られ、広告主・広告代理店は、広告ターゲットに適したWebサイトに広告を出稿することが可能です。

また、当社グループの収入形態としては、「スペースハンター」で売買取引されたインターネット広告の価格から一定の料率を得る手数料収入となっております。

社内ブログ（SNS）構築パッケージ ドリコムブログオフィス

企業内で社員一人一人がブログを持って情報発信
個人で持っている有益な知恵や情報の共有を促します。



既に250社を超える企業
(25,000人)に
利用されています。

1. 抜群の機能群

- ・利用に合わせた豊富なポータル
- ・足跡機能を始めたアクセス解析
- ・携帯電話対応など

2. 豊富な利用実績

- ・わずか2年で250社以上の利用
- ・ユーザー数も25,000人以上

3. 使いやすさ

- ・利用者の声をこまめにフィードバック
- ・豊富な機能、SNS的な使い方も◎
- ・一括設定可能な管理者画面

4. 短納期・低価格

- ・パッケージも最短で1ヶ月半の納品
- ・ASPは月々420円/人の低価格

5. セキュリティ体制

- ・ログインID、PASSによる認証
- ・IPによる制限が可能
- ・通信はSSLにて暗号化

6. 選べる提供形態

- ・気軽に始められるASP版
- ・エンタープライズ版で大規模も対応
- ・導入規模に合わせてコストを最小化

「ドリコムブログオフィス」は利用目的・規模・価格に合わせたご利用が可能です！

	サービス形態	商品・サービス名	利用目的・メリット
ドリコム ブログ オフィス	ASP	ASP版	小規模対応。 気軽にスタートできる価格設定。
	パッケージ	2006年10月販売開始 アプライアンスモデル	中小規模対応。 サーバ等選定不要の短期導入。
		2007年4月販売開始 with ConceptBase版	中大規模対応。 高性能な社内検索システムとの連携。
		パッケージ版	中大規模対応。 利用目的に合わせたカスタマイズ導入。
		2006年11月営業開始 エンタープライズ版	大規模対応。部署概念の導入。 アクセスコントロール強化。

TOPICS

4/2006

2006.04

- 東京都渋谷区恵比寿に東京支店を拡張移転

5/2006

6/2006

2006.06

- 株式会社ドリコムジェネレーティッドメディアを設立
- 本店の所在地を京都から東京に変更

7/2006

2006.07

- 収益拡大につながるSNS構築システム「ドリコムSNS」の販売を開始

8/2006

9/2006

10/2006

11/2006

12/2006

2006.12

- 株式会社ドリコムマーケティングを設立
- ドリコムジェネレーティッドメディア、ブログの読者向け求人広告掲載サービス「ドリコムジョブボード(B)」のサービスを開始



2006.10

- テクノロジー企業成長率ランキング「2006 デロイト トウシュ トーマツ 日本テクノロジー Fast50」で8位を受賞

- NECグループと社内ブログシステム事業で協業
- ソーシャル・モノ・ブックマークサービス「モノリス(B)」のサービスを開始



2007.03

- 無料で広告配信管理が可能なアドマーケットプレイス「スペースハンター(TM)」のサービスを開始



1/2007

2/2007

3/2007

営業の概況

2007年3月期の状況

当社グループ（当社及び当社連結子会社）が事業展開をしているインターネット市場は確実に拡大傾向にあり、総務省の発表によりますとブロードバンド契約者数の合計数は2006年12月末現在で2,576万契約にのぼり、引き続きブロードバンド化が進展しております。また、株式会社電通の発表によりますと、インターネット広告費は2006年に3,630億円（前年比129.3%）に達し、急激に市場が拡大しております。

このような市場環境のもと、当社グループは、日本におけるブログ関連事業のリーディングカンパニーとしてのブランドを確固たるものとすると共に、ブログ事業に続く新たな中核事業として「CGM（Consumer Generated Media）」及び「SaaS（Software as a Service）」への投資を積極的に行っておりまいた。一方、既存のブログ事業においては、「ドリコムブログオフィス」及び「ドリコムCMS」の売上に関して当初想定を下回ったこと及び主に人件費等固定的な費用の増加により、経常損失を計上するにいたりまいた。

以上の結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高843,297千円（対前年同期19.9%増加）となりました。また、経常損失は181,081千円（前年同期は経常利益225,324千円）、当期純損失は114,345千円（前年同期は当期純利益124,617千円）となりました。

① ブログ事業

法人向けのブログ関連システムの販売となります。

当連結会計年度におきましては、ブログ事業に続く新たな中核事業の一つを担うSaaS分野の強化を図るため、光通信グループとの業務提携を行い、2006年12月に株式会社ドリコムマーケティングを設立いたしました。

当社グループの主力製品である大規模ブログパッケージ構築システム「ドリコムブログシステム」及び収益拡大につながるSNS（Social Networking Service）構築システム「ドリコムSNS」は、ブログ・SNSサービスを開始したい法人企業の市場ニーズに支えられ、前連結会計年度に引き続き好調に推移いたしました。

また、社内ブログ（SNS）構築パッケージ「ドリコムブログオフィス」に関しましては、今後さらなる市場拡大が見込まれる社内ブログ市場に対応するために、日本電気株式会社及び株式会社PFUを始めとした大手販売代理店と提携・協業をいたしました。さらに、数千人を超える規模でも運営可能なエンタープライズ版、短納期で導入可能かつカスタマイズが不要なアプライアンスモデルといった顧客のニーズに合わせた様々な提供形態の開発という投資活動に注力いたしましたが、当連結会計年度の売上高に大きく貢献するまでにはいたりませんでした。

「ドリコムCMS」に関しても、当連結会計年度より売上高の拡大が見込めるパッケージ形態による販売を開始しましたが、営業のリソース不足により当連結会計年度の売上高に大きく貢献するまでにはいたりませんでした。

以上の結果、ブログ事業の売上高は757,363千円（対前年同期12.9%増加）、営業損失は119,418千円（前年同期は営業利益258,376千円）となりました。

② 検索エンジン事業

インターネット広告サービス、カテゴリ特化型検索サービス及び個人向けブログ関連サービスの提供となります。

当連結会計年度におきましては、ブログ事業に続く新たな中核事業の一つを担うCGM分野の強化を図るため、リクルートグループとの業務提携を行い、2006年6月に株式会社ドリコムジェネレーターメディアを設立し、無料ブログ提供サービス「ドリコムブ

ログ」及びカテゴリ特化型検索サービスを移管いたしました。

また、著しい成長を遂げているインターネット広告市場に対応するために、2007年3月に無料で広告配信管理が可能なアドマーケットプレス「スペースハンター」のサービスを開始すると共に、株式会社ドリコムジェネレーターメディアがブログ読者向け求人広告掲載サービス「ドリコムジョブボード（β）」のサービスを開始いたしました。加えて、インターネット広告市場の加速度的な成長に伴い、当社が技術提供をしております株式会社サイバーエージェントのユーザーマッチ型インターネット広告配信サービス「MicroAd」の売上高は好調に推移いたしました。

以上の結果、検索エンジン事業の売上高は39,926千円（対前年同期38.8%増加）、営業損失は87,216千円（前年同期は営業損失4,366千円）となりました。

③ その他の事業

主に2006年12月に新設いたしました株式会社ドリコムマーケティングでの売上を計上しております。

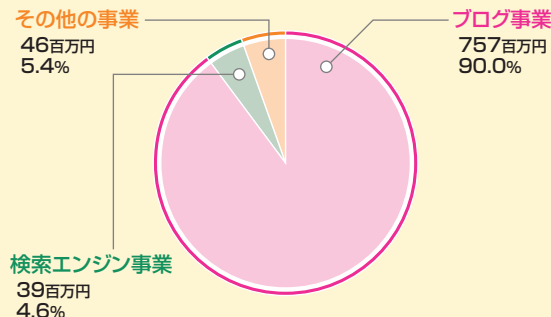
以上の結果、その他の事業の売上高は46,007千円（対前年同期1,286.6%増加）、営業損失は46,637千円（前年同期は営業利益2,424千円）となりました。

2008年3月期の見通し

次期の見通しについては、当連結会計年度に新設した株式会社ドリコムジェネレーターメディア及び株式会社ドリコムマーケティング並びに2007年4月に子会社化した株式会社ジェイケンが連結売上高に寄与することにより、連結売上高2,430百万円（対前年同期比188.2%増加）を見込んでおります。損益としては、人員増加に伴う費用増加及びのれん償却費等、固定費の増大により連結経常利益は270百万円（前年同期は経常損失181百万円）、連結当期純利益は40百万円（前年同期は純損失114百万円）を見込んでおります。

一方、当社単体の売上に関しては、既存事業の営業体制を強化すると共に新規サービスの収益化を図ることにより1,100百万円（対前年同期比37.4%増加）を見込んでおります。損益としては、人員増加に伴う費用等、固定費の増大により経常利益は15百万円（前年同期は経常損失134百万円）、当期純利益は10百万円（前年同期は純損失85百万円）を見込んでおります。

売上高構成比（2007年3月期）





連結財務諸表 (要旨)

□ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第 6 期 2007年3月31日現在	第 5 期 2006年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,018,156	1,302,935
現金及び預金	588,805	958,384
受取手形及び売掛金	239,390	284,917
たな卸資産	84,997	14,658
繰延税金資産	29,814	10,543
前払費用	61,005	30,835
未収法人税等	21,617	—
その他	21,091	3,595
貸倒引当金	△ 28,565	—
固定資産	1,123,920	113,966
有形固定資産	56,615	10,940
無形固定資産	792,711	41,144
投資その他の資産	274,593	61,882
資産合計	2,142,077	1,416,902

科 目	第 6 期 2007年3月31日現在	第 5 期 2006年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	896,119	178,127
固定負債	—	6,052
負債合計	896,119	184,179
(資本の部)		
資本金	—	403,176
資本剰余金	—	644,156
利益剰余金	—	185,389
資本合計	—	1,232,723
負債及び資本合計	—	1,416,902
(純資産の部)※1		
株主資本	1,118,850	—
資本金	403,413	—
資本剰余金	644,393	—
利益剰余金	71,044	—
評価・換算差額等	△ 2,462	—
少数株主持分	129,569	—
純資産合計	1,245,957	—
負債純資産合計	2,142,077	—

※1 2006年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。(単体についても同様です。)

□ 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第 6 期	第 5 期
	2006年4月 1 日～ 2007年3月31日	2005年4月 1 日～ 2006年3月31日
売上高	843,297	703,175
売上原価	326,795	215,087
売上総利益	516,502	488,087
販売費及び一般管理費	765,724	231,653
営業利益又は営業損失 (△)	△249,222	256,433
営業外収益	73,987	122
営業外費用	5,847	31,232
経常利益又は経常損失 (△)	△181,081	225,324
特別損失	—	8,830
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△181,081	216,493
法人税、住民税及び事業税	9,178	97,070
法人税等調整額	△69,484	△ 5,195
少数株主損失	6,430	—
当期純利益又は当期純損失 (△)	△114,345	124,617

□ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第 6 期	第 5 期
	2006年4月 1 日～ 2007年3月31日	2005年4月 1 日～ 2006年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 190,650	59,895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 970,404	△ 115,868
財務活動によるキャッシュ・フロー	791,474	942,682
現金及び現金同等物の増減額	△ 369,579	886,708
現金及び現金同等物の期首残高	958,384	71,675
現金及び現金同等物の期末残高	588,805	958,384

□ 連結株主資本等変動計算書 ※2

第6期 (2006年4月1日～2007年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日 残高	403,176	644,156	185,389	1,232,723	—	—	—	1,232,723
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	236	236	—	472	—	—	—	472
当期純損失 (△)	—	—	△114,345	△114,345	—	—	—	△114,345
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	△2,462	△2,462	129,569	127,106
連結会計年度中の変動額合計	236	236	△114,345	△113,872	△2,462	△2,462	129,569	13,234
2007年3月31日 残高	403,413	644,393	71,044	1,118,850	△2,462	△2,462	129,569	1,245,957

※2 2006年5月1日施行の会社法に伴い、「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、P11の「連結貸借対照表」で新設された「純資産の部」の中で、主に株主の皆様へ帰属する株主資本等について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

単体財務諸表 (要旨)

□ 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第 6 期	第 5 期
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	793,247	1,296,720
固定資産	1,214,076	121,966
資産合計	2,007,323	1,418,686
(負債の部)		
流動負債	860,445	178,038
固定負債	—	6,052
負債合計	860,445	184,090
(資本の部)		
資本金	—	403,176
資本剰余金	—	644,156
利益剰余金	—	187,262
資本合計	—	1,234,596
負債及び資本合計	—	1,418,686
(純資産の部)		
株主資本	1,149,340	—
資本金	403,413	—
資本剰余金	644,393	—
利益剰余金	101,534	—
評価・換算差額等	△ 2,462	—
純資産合計	1,146,878	—
負債純資産合計	2,007,323	—

□ 損益計算書

(単位：千円)

科 目	第 6 期	第 5 期
	2006年4月 1 日～ 2007年3月31日	2005年4月 1 日～ 2006年3月31日
売上高	800,416	703,175
売上原価	318,166	215,087
売上総利益	482,250	488,087
販売費及び一般管理費	654,713	230,398
営業利益又は営業損失 (△)	△ 172,463	257,689
営業外収益	43,259	116
営業外費用	5,397	31,232
経常利益又は経常損失 (△)	△ 134,600	226,573
特別損失	—	8,830
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△ 134,600	217,742
法人税、住民税及び事業税	5,663	97,000
法人税等調整額	△ 54,536	△ 5,195
当期純利益又は当期純損失 (△)	△ 85,728	125,937
前期繰越利益	—	61,325
当期末処分利益	—	187,262

□ 株主資本等変動計算書

第6期 (2006年4月1日～2007年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
2006年3月31日残高	403,176	644,156	644,156	187,262	187,262	1,234,596	—	—	1,234,596
事業年度中の変動額									
新株の発行	236	236	236	—	—	472	—	—	472
当期純損失 (△)	—	—	—	△85,728	△85,728	△85,728	—	—	△85,728
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	△2,462	△2,462	△2,462
事業年度中の変動額合計	236	236	236	△85,728	△85,728	△85,255	△2,462	△2,462	△87,718
2007年3月31日残高	403,413	644,393	644,393	101,534	101,534	1,149,340	△2,462	△2,462	1,146,878

株式情報・会社概要

■ 株式の状況 (2007年3月31日現在)

発行可能株式総数	43,520株
発行済株式の総数	19,847株
株主数	1,997名

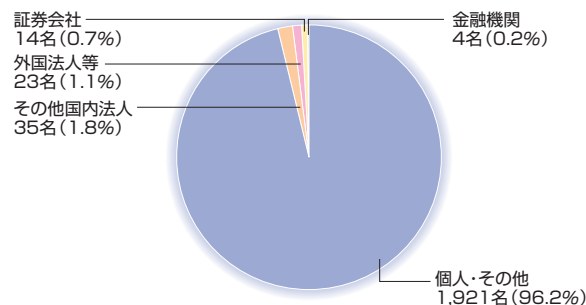
■ 大株主 (上位10名) (2007年3月31日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
内藤 裕紀	11,240	56.6
廣瀬 敏正	1,344	6.8
安藤 正樹	1,184	6.0
井上 陽平	1,184	6.0
浅井 一希	224	1.1
齊藤 雄介	160	0.8
池田 貴紀	128	0.6
小上 勝造	103	0.5
MLIEFG ノントリーティカストディーアカウント	78	0.4
大和証券株式会社	74	0.4

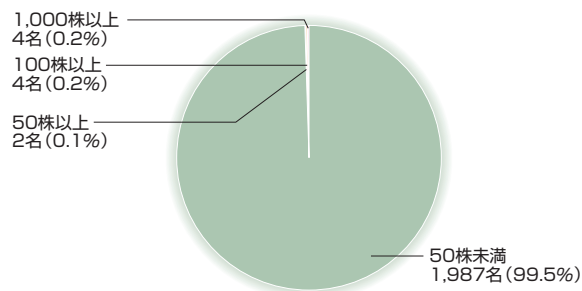
■ 会社概要 (2007年3月31日現在)

商号	株式会社ドリコム
本社所在地	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿一丁目23番23号 恵比寿スクエア4F
創立	2001年11月13日
資本金	403百万円
代表取締役社長	内藤 裕紀
従業員数	97名 連結123名
主な事業内容	①コンピューターシステムの設計、開発、製造、販売及び制作の請負 ②インターネットホームページ制作及び販売 ③インターネットを利用した情報提供サービス

◆所有者別分布状況



◆所有数別分布状況



■ 役員 (2007年3月31日現在)

代表取締役	内藤 裕紀
取締役	廣瀬 敏正
取締役	安藤 正樹
取締役	井上 陽平
執行役員	新造 元洋
執行役員	新造 敬義
監査役員	南山 地
監査役員	藤瀬 正典

■ 連結子会社 (2007年3月31日現在)

- 株式会社ドリコムテック
- 株式会社ドリコムジェネレーターィッドメディア
- 株式会社ドリコムマーケティング

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法	当社のホームページに掲載する。 http://www.drecom.co.jp/ir/kessan/
上 場 証 券 取 引 所	東証マザーズ

ホームページ/IR情報のご案内

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。



<http://www.drecom.co.jp/>

株主様向け
アンケート

株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3793

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、ビジネスレポート
がお手元に到着してから約2ヶ月間
(2007年8月31日まで)です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄給(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com